2023年（令和5年）
7月8日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3
桂ビル2階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料　月額5,940円（税込）
電子版購読料　月額4,400円（税込）

責任と誠意で地域社会建設に奉仕する
特定建設業
松浦建設株式会社
代表取締役社長 松　浦　一　久
〒300−0331　茨城県稲敷郡阿見町阿見608−3
TEL 029−887−1771㈹
FAX 029−887−5214

いばらきの公共事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県土木部道路建設課編①

私は32～33歳の頃、石下土木事務所（現・常総工事事務所）に勤務しておりました。道路改良、交差点改良、橋梁などの現場を担当し、日々頑張っていたことを懐かしく思い出します。この地域は名所旧跡が多く、暇を見つけては尋ね歩いたりもしておりました。（弊社HPトピックスに掲載）

みらい市から筑西市にかけて約40㎞のロングバイパスです。この計画を最初に見たとき、「何と大胆な計画だろう」とびっくりしたことを覚えています。常総の地に広がる美田の中を、どこまでも真っ直ぐにのびていくルートだったのです。この常総バイパスとは、長いお付き合いになりました。

この事業の大部分は、圃場整備事業と連携し、創設換地で道路用地を生み出していただき、その後、道路側が用地を買収をする、という仕組みでした。おかげで、スムーズに用地取得を完了させることができたのです。

工事にあたっては、ちょっと厄介な問題がありました。このバイパスには、軟弱地盤の箇所がたくさんあったのです。

道路建設課、石下土木事務所、下館土木事務所で綿密に打ち合わせをしながら、工事を進めました。本格的な軟弱地盤処理は行わず、盛れる高さまで土を盛り、下がったらまた土を盛る。落ち着いたところで路盤工を行い、防塵処理を施し、交通開放をする、というやり方です。

このようにして、平成7年、常総バイパスは暫定2車線（一部4車線）で全線開通となったのです。

この頃、国道294号は地域高規格道路に格上げとなりました。立体化を進める路線となったのです。しかし、立体化より4車線化を優先して進めるべきということになり、国道354号交差点から筑西市にかけ、暫定2車線となっていた27・5㎞について、一気に拡幅工事を進めることとしたのです。

これだけ長い区間の事業採択は例がないということで、国は難色を示しておりましたが、なんとかクリアできた時は本当に嬉しかったです。常総市、下妻市、筑西市にバランスよく工事の進捗が図れるよう、配慮しながら工事を進めていきました。

今では4車線化も完了し、県南部や県西部の大動脈となっております。どこまでも続くかのような、真っ直ぐなロングバイパスが大活躍しているのです。

立体化より4車線化優先

国道294号は、千葉県柏市から茨城県南部、西部、栃木県を通って、福島県会津若松市に至る一般国道であります。

常総バイパスは、つくばエクスプレス万博記念公園駅の北西に位置するD26街区④画地。面積は742・78㎡。

用途地域は近隣商業地域（建ぺい率80%、容積率200%）。地目は宅地。

周辺道路は、主要地方道つくば真岡線バイパス、つくば市道7−4040号線に接している。

当日の入札には同社のみが参加。落札価格は予定価格（最低売却価格）と同額の5110万3000円だった。

建物の規模はS造3階建て延べ床面積736・5㎡（建築面積269・8㎡）。完成予定は来年7月としている。

国道294号常総バイパスの思い出
渡邊 一夫 氏 × 渡辺　功 氏

元県土木部長（当時・県土木部道路建設課）
元県土木部技監兼筑西土木事務所長（当時・常総工事事務所長）

国道294号常総バイパスとの最初の出会いは、昭和59年4月、下館土木事務所でのことです。当時はJR水戸線と関東鉄道常総線を跨ぐ神明大橋の、片側2車線の上部工が完成間近でした。

まだ現場1年目だった私は、先輩が担当する現場を見て、その壮大さに感動しました。「いつかは自分も、こんな現場を監督したい」と、土木職員としての士気が大いに高まるのを感じていたのです。2年後に担当した主要地方道つくば益子線岩瀬跨線橋の上部工工事では、神明大橋の資料を参考に設計書の作成や現場管理を行い、何とか無事に完成させることができました。

その後、再び常総バイパスに関わったのは平成24年度～25年度、常総工事事務所の所長を務めていた時のことです。東日本大震災の爪跡が残る中、平成29年の首都圏中央連絡自動車道開通に合わせ、常総インターチェンジから国道125号までの4車線化を完了すべく、予算確保、工事発注に奔走しておりました。

3～5工区の分割工事で、交通量は1日2万台を超えるほどでした。そんな中でも、無事故で工事を終えられたのは、工事業者間の綿密な連携、徹底した現場の安全管理のおかげであり、関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

また4車線化に合わせ、常総インターチェンジのランプ橋と料金所までのB区間の整備も一体的に実施していました。国土交通省やNEXCO東日本の工事と同時進行になるため、工事範囲や進入路および開通目標に向けた工程など、協議調整には非常に苦労しています。

その後、平成27年9月に起きた関東・東北豪雨では、常総インターチェンジの一部用地を災害廃棄物の仮置場として活用しました。避けようのない災害に見舞われながら、それでも圏央道の開通に支障なく完成できたのは、関係者一同の努力の賜物と思っています。

平成29年度～30年度、筑西土木事務所の所長を務めた時には、常総バイパスの4車線化工事も最終盤を迎えていました。「道の駅しもつま」から筑西市の境までの間を、平成31年3月に供用し、全線の4車線化が完了しました。併せて、栃木県境付近にあたる筑西市樋口の、延長1㎞区間での4車線化も完了し、取手市西部から栃木県境までの約50㎞が、連続して4車線で供用されました。

私はこの他にも、県警察本部交通規制課に所属していた時は4車線化の交差点協議担当として、検査指導課首席検査監であった時は橋梁工事等の検査で、常総バイパスに携わっていました。

県土木職員として初めての現場から、筑西土木事務所で退職するまでの35年間に渡り、節目節目で常総バイパスと関わってきたのです。

現在、沿道には「アグリサイエンスバレー常総」、「道の駅常総」がオープンし、「しもつま鯨工業団地」内には海外企業が進出するなど、そのストック効果は十分に現われています。

今後も県南・県西地域の発展に一層貢献することが期待されている大規模事業に、県土木技術者として長期間携われたことは大変光栄であり、今でも感謝しております。（島津就子）

いばらきの公共事業を紐解く

渡辺　功（わたなべ　いさお）
1959年2月27日生まれ。64歳。初入庁は82年で、都市施設課に所属。その後、下館土木事務所工務第一課改良係技師、常総工事事務所長、都市整備課長などを経て、2019年に技監兼筑西土木事務所長で定年を迎えた。

上曽トンネル本体工事が貫通
県内最長 25年度完成へ期待
石岡市と桜川市、県／工事関係者も参集

（仮称）上曽トンネル本体工事貫通式が4日、トンネル坑内で挙行された。事業者は石岡市および桜川市、発注者は茨城県、施工者は大林・株木・市村JV（石岡工区）と大成・岡部・白田JV（桜川工区）。各関係者が参集し、貫通発破や通り初め、鏡開きなどを実施した。上曽トンネルの全長は3538mで、開通すれば県内最長の道路トンネルとなる。完成は2025年度を見込んでいる。

通り初めや鏡開きで祝う

式典ではまず、貫通発破を実施。谷島洋司石岡市長（写真上段右）、大塚秀喜桜川市長（写真上段左）らが点火のスイッチを押した。続いて、貫通点清めの儀や関係者の通り初めを執り行った。

事業者あいさつでは谷島石岡市長が「本日3538mのトンネルが貫通した。新型コロナウイルス感染症の流行など、厳しい環境で施工されたと思う。軟弱地盤への対策を講じるなどの難局を乗り越えて本日を迎えられたことは感無量」と喜んだ。

◀トンネル坑内で挙行された貫通発破や鏡開きで工事貫通を祝う

大塚桜川市長は「トンネルの開通により利便性の向上や県の発展に大きな波及効果が期待される。1日も早い全線開通をご祈念申し上げる」と述べた。

来賓祝辞では関口忠男石岡市議会議長（写真中段右）が「県南地域と県西地域を茨城空港につなげる重要な幹線道路となる」、萩原剛志桜川市議会議長（写真中段中央）が「桜川市と石岡市の交通の利便性が飛躍的に向上する」と期待。

白田信夫県議会議員（写真中段左）が「沢山の人々の願いが込められている。必ず素晴らしいトンネルができると確信している」、戸井田和之県議会議員（写真下段右）が「関係者の方々、地元住民の皆さまのご協力のおかげ。皆で開通の日を笑顔で迎えたい」、櫻井信幸県議会議員（写真下段中央）が「このトンネルの開通により石岡市と桜川市でさまざまな交流が図られ、絆が深まっていくことが期待される」と祝辞。

施工者を代表して㈱大林組の東出明宏常務執行役員東京本店土木事業部長（写真下段左）が「技術と経験を最大限に駆使し、無事貫通の日を迎えることができた。まだ工事は終わっていないので竣工目指して施工者一丸となり頑張ってまいりたい」と謝辞。

その後は2つの樽の鏡開きを行った後、大成建設㈱の安部吉生常務執行役員土木営業本部副本部長が乾杯の発声。万歳三唱を行い、無事に閉会した。

県が執行方針など説明
県出先4事務所 茨建協土浦支部 事業打合せ会議

県出先4事務所と県建設業協会土浦支部（小林伸行支部長＝写真左）は6月30日、事務事業打合せ会議および意見交換会を県土浦土木事務所会議室で開催した。県土浦土木事務所（大森満所長＝写真右）・県流域下水道事務所（磯野健寿所長）・県県南水道事務所（野中伸一所長）・県中央水道事務所（清水敏治所長）から所長や幹部職員16人が、支部からは正副支部長ら6人が出席し、今年度の主要事業や建設事業のさまざまな問題について情報を共有した。

冒頭、小林支部長は「管内は事業も多くさまざまな問題も発生しており、皆さまのご意見をうかがえればと思う。先日は冠水災害があったが、支部として災害対応のシステムを構築しておりこれからも対応に協力していきたい」とあいさつ。

県側を代表して大森所長は「日頃から地域の安全の守り手として協力いただき感謝。事業推進にあたり円滑な発注と迅速な執行を目指している。本日の会議により今後の事業執行が今まで以上に円滑に進むことを祈念する」と述べた。

会議では、土木部公共事業等の執行方針や各事務所の主要事業、ICT技術活用の実施方針、建設発生土の搬出先明確化、工事事故などについて説明。

意見交換は土浦支部が▽完全週休二日制▽情報共有システム▽既製杭工事の実勢価格▽設計変更▽排水樋管工事▽契約工事の変更手続きーなど12項目を要望し意見を交わした。

セルレア 店舗兼共同住宅計画
上河原崎 中西地区 5110万円で742㎡用地落札

県宅地整備販売課は4日、上河原崎・中西地区の商業・業務施設等用地分譲に係る一般競争入札を執行。不動産賃貸などを手掛けるセルレア㈱（美浦村）が落札した。事業計画は店舗兼共同住宅としており、今年11月に着工する予定。

旧本庁舎の解体 本年度は設計へ
《下妻市》

下妻市は、旧本庁舎解体に向けた設計業務を進めていく。設計の指名競争入札は7月11日開札の予定で、10月末までの策定を目指す。着工時期は2024年度以降で検討している。

解体跡地の利活用方法についても、今後検討していく。庁舎南側にある駐車場は、現在は新庁舎等の駐車場として利用している。

旧本庁舎の建物規模は、RC造3階建て、延べ面積4009㎡、築年数50年以上が経過している。敷地内には第2庁舎などもある。

物品など追加受付 8月1日から開始
《牛久市》

牛久市は2022・23年度競争入札参加資格審査申請の追加受付（物品・役務）を8月1日から8月7日までの期間で実施する。申請方法は郵送等（書留または簡易書留、宅配便可）又は持参とする。

申請区分は「物品（物品の販売・役務提供・印刷請負等）」。有効期間は23年10月1日から24年3月31日。

なお、建設工事・コンサルタントについては県との共同受付で行う。受付期間は8月1日～7日まで。

問い合わせ先および提出先は契約検査課（〒300−1292、牛久市中央3−15−1、TEL029−873−2111内線1031・1032）まで。